



「蓮」のモザイクアート

聲

— Voice —
ヴォイス

九州教区だより

Vol.02

contents

特集 慶讃法要お待ち受け大会	1
東本願寺仏事サポートセンター福岡	5
九州教区寺院活性化支援室	7
Voiceお役立ち情報	10

九州教区の現勢 2022年6月1日現在

※()内は、2021年7月1日までの数

	寺院・教会数				僧侶数			教師数			住職・教会主管者数		
	別院	寺院	教会	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計
九州	3 (3)	802 (804)	11 (11)	816 (818)	1,959 (1,975)	1,191 (1,184)	3,150 (3,159)	1,482 (1,493)	274 (273)	1,756 (1,766)	674 (680)	11 (11)	685 (691)
全国	51 (51)	8,465 (8,483)	108 (109)	8,624 (8,643)	20,522 (20,630)	11,180 (11,200)	31,702 (31,830)	14,150 (14,210)	2,816 (2,806)	16,966 (17,016)	7,156 (7,174)	199 (196)	7,355 (7,370)

表紙のモザイクアートについて

九州の大谷保育協会加盟園の園児さんが「人と生まれて」をテーマに描いた絵とその作業風景(写真)を使って制作されました。真宗保育理念(本願に生き、ともに育ちあう保育)が表現されており、コロナ流行下でありながらも、子どもたちのつながりを感じる作品です。九州教区お待ち受け大会の会場に展示されました。
(画像編集・恒賀康太郎)

ご門徒さんと一緒に慶讃法要をお迎えしましょう



正信偈書写本

慶讃テーマリーフレット

ご希望の方は教務所まで

編集後記

先般、四月十日に九州教区の慶讃法要お待ち受け大会が開催されました。コロナ下ということもあり、参加人数の制限もある中での開催でしたが、今できることを、できるかたちで精一杯にお勤めした大会であったと感じています。コロナをはじめ法務や移動手段などさまざまな都合により参加いただけなかった方に、少しでも当日の様子をお届けしたいと思い、今号はお待ち受け大会に関する記事を掲載いたしました。本誌では今後も慶讃法要に向けた動きを大切に編集を進めてまいります。
表紙の文字「聲」が、今号より新しくなりました。本誌の名称「聲 Voice」には、教区の皆さんに教区内のさまざまな情報やお寺やご門徒方の声をお届けしていきたいという思いと、念仏せよと勧めてくださいる親鸞聖人をはじめ沢山の先達方のお声を聞いて参りたいという願いを込めさせていただいております。この思いに立ち返り、「聲」の文字を宗祖の御真筆である「教行信証(坂東本)」から引用させていただきました。

広報部門 齊藤暁雲

慶讃テーマ 南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう

教区教化テーマ 生活を聞法の場に ～真宗門徒として～

発行日/2022年8月1日
発行/真宗大谷派 九州教務所
〒830-0038 福岡県久留米市西町540-1 TEL/0942-32-3056 FAX/0942-39-5077
編集/九州教区 教化委員会 広報部門
発行責任者/九州教務所長 信國 眞一

真宗大谷派 九州教区



九州教区宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年 慶讃法要お待ち受け大会

慶讃テーマ
「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」

四月十日、九州教区宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要お待ち受け大会(以下「お待ち受け大会」という)が、熊本城ホールを会場に開催され、教区役職者をはじめ約一、一〇〇人が参加しました。当日は、新型コロナウイルス感染症に不安をお持ちの方も自宅から参加できるように、YouTubeによるライブ配信も行われました。

午前中はパレードが行われ、鼓笛演奏に合わせて横断幕や仏旗を掲げた僧侶や、大谷保育協会加盟園の園児たちが商店街を賑々しく練り歩き、お待ち受け大会の開催をPRしました。その後、会場を熊本城ホールに移して行われたオープニングでは園児たちが和太鼓を演奏し、続いて花まつりが行われました。開式にあたり中根慶滋九州教務所長(当時)から、六年前の熊本地震により今なお苦しんでおられる方々へのお見舞いの言葉と、パレードに参加された皆さんへの感謝の言葉が述べられました。

花まつりでは園児たちが誕生仏に甘茶を灌ぎ、釈尊のご誕生をお祝いしました。その後、吉柳佳代子氏(九州大谷短期大学准教授)による講演・手遊びが行われました。

午後からのお待ち受け大会では、開会にあたり内局を代表して古賀堅志参務より挨拶があり、同朋唱和による勤行(正信偈三淘)が行われました。大谷暢裕門首はご挨拶のなかで「現代の社会に生きる一人の人間として、あらためて宗祖聖人が顕かにされた本願念仏のみ教えに生きようではないか」と問いかけられました。

続いて記念イベントでは、熊本県出身の歌手、水前寺清子氏によるステージ公演が行われ、「いっぽんどっこの唄」や「三百六十五歩のマーチ」など、懐かしい歌に参加者は耳を傾けていました。

記念講演では、真城義麿氏(真宗大谷派善照寺住職)が講師を勤められ、慶讃テーマ「南無阿弥陀仏人と生まれたことの意味をたずねていこう」についてお話しされました。

閉会にあたり、荷堂岳主査(九州教区お待ち受け大会に関する小委員会)から教区の方々のご協力により、本大会を円成することができたことへの謝辞が述べられるとともに、熊本地震に思いを寄せながら「色々な方々の痛みや悲しみ、喜びに寄り添いながら九州教区として歩んでまいりたい」と挨拶がなされました。

今後、九州教区では、このたびのお待ち受け大会に続いて、さまざまな慶讃事業への取り組みが進められていくこととなります。



花まつり

● 供灯供華、三帰依(ちかひの言葉)、灌仏
● 吉柳佳代子氏による講演・手遊び



九州大谷短期大学の学生たち



中根 慶滋 九州教務所長(当時)



パレード

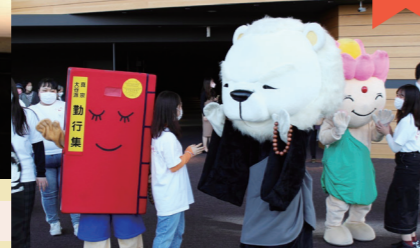


ともし 砥用音楽幼稚園の鼓笛隊の演奏



オープニング
和太鼓演奏
明光保育園の園児たち

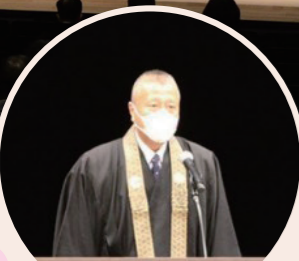
お待ち受け大会



荷堂 岳 主査



熊本城ホール



水前寺 清子氏



YouTubeにて、お待ち受け大会の様子を視聴できます



大谷 暢裕 門首 ご挨拶



本日、ここに、九州教区宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要お待ち受け大会のご縁をいただき、誠にありがとうございます。

さて、わたくしは、現代社会に生きる一人の人間として、今ほど、浄土真宗・念仏の教えが求められているときはないと感じております。突然おとずれるかもしれない大震災。環境破壊に起因すると考えられる地球温暖化と、それに伴う異常気象。さらには目に見えない感染症への恐怖。貧困や格差の拡大からくる社会の分断。自己の正当性のみを誇示した絶えるこ

【内局挨拶】

古賀 堅志 参務



全国に先駆けて、新教区を発足されました九州教区におかれましては、教区の皆様によって慎重に議論が重ねられ、新しい教区、組のあり方を形作っていかれたこととあります。皆様の歩まれた道は、宗門の新たな基盤作りの方向性に大きな示唆を与えるものであります。あらためて、そのご苦労に対して深く敬意を表します。

一昨年より続く新型コロナウイルス感染症の脅威は、私た

とのない戦争。また生命科学やAIの発達によって、人間存在という枠組みそのものが根底から揺り動かされています。不安ばかりがつのる世の中です。しかし、このような不安の中を生きる私たちには帰るべきところがあります。それは「愚」の大地であり、「凡夫」としてのわたくし一人という宗祖のお示しであります。誠にありがたいことだと感じます。

こうした今、このときに慶讃テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」が発信されたことは誠に意義深く感じます。あらためて、宗祖聖人が顕かにされた本願念仏のみ教えに生きようではありませんか。

来る二〇二三年の宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要には御真影の前で皆さまと共に宗祖の御誕生を慶び、念仏相続のご勝縁に遇わせていただきますことを心より念じ申し上げ、ご挨拶いたします。

二〇二二年四月十日 真宗大谷派門首 大谷 暢裕

ち真宗門徒の生活にも大きな影響を与えており、伝統されてきた仏法聴聞や寄り合い、語り合いということも容易にできない状況が続いています。ですが、そのようななかにあっても、折に触れて聞こえてくるのは、やはり門徒さん方のお念仏「南無阿弥陀仏」の声であります。その声は、このような、今だからこそ「念仏申せ」という、この私への促しとして響いてくるのであります。

周知の通り宗派では慶讃法要を迎えるにあたって「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」というテーマを掲げております。宗祖の御誕生そして立教開宗を慶び讃えるということは、念仏の教えに出会い、自らにかけられた願いに深く領き、そして、そのご恩に報いていく歩みに他なりません。

本日の大会をおしていよいよ同朋会運動の更なる推進へと連なっていくことを念じ申しあげます。

※内局挨拶 要旨

記念講演

真宗大谷派善照寺住職 真城 義磨 氏



このたびの慶讃法要のテーマは「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」ということでありますが、このはじめに「南無阿弥陀仏」と付けられていることの意味について、少し考えさせていたいただきたいと思ひます。

日頃、私たちは「私は」という主語で生きています。つまりは「人間の知恵の世界」です。するとどうしても自分の都合がよい方に物事が進んで欲しいと、そればかりになってしまいます。そして思いどおりに進むことを邪魔するものは排除したいというのが、私たちの日常的な思いですね。苦痛とか、不便とか、不快とか、不足とか、不健康とか、そういうものをとにかく排除していこうとします。そういうところから立ったまま、人と生まれたことの意味をたずねると、これはテーマに願われているものとは全く方向違いになってしまふ心配があります。

では、「南無阿弥陀仏」によって開かれてく

る世界はというと、それは「仏様の智慧から見たら」という世界です。そのときの主語は「仏様が」「阿弥陀様が」です。阿弥陀という仏様が「私のために、私のことを」という、そこに立たせていただく。そこから物事を見て考えると、「あー、そうやった」と我に返るとか、あるいは「あー、また大事なことを忘れて、目の前の欲に振り回されて、私は右往左往しておったな」と気付かせていただきます。

今日の午前中に花まつりがありました。お釈迦様が誕生されてすぐの「天上天下唯我独尊」という有名な言葉があります。「天上天下」とは「どんなときでも」ということです。「唯我」とは「あなたはかけがえないあなたであって、代わりはどこにもいない」。「独尊」とは、「何も付け加えなくてもありのままのあなたとして尊い」ということです。私たちは、それぞれがかけがえない尊い者として存在しているのです。仏様の智慧からは、私たちは尊い者同士平等なのだということですね。これが「南無阿弥陀仏の世界」であろうと思ひます。

ですが、ありのまま、そのまま尊いと言われますと、「じゃあこのままでいいんだ」と思う人がいますが、全く違います。仏様から「あなたは尊い」と見ていただいて、これに続けて「では尊いあなたは、人生を尊く生きていますか」とこう尋ねられたら如何でしょうか。

テーマのなかに「人と生まれたことの意味」とありますが、「南無阿弥陀仏の世界」を忘れ

ると、私たちは「個性」とか「私らしさ」とか、また「人生は生まれてから死ぬまでだから、死ぬまでを楽しく」となりがちです。そうではなくて、私が生まれた時にどれほどの方々が私のためにどれほどのことをしてくださったのか。私のことを過去も今もこれから気にかけて応援し、うまくいったら喜んでくれる方々が仏様をはじめどれほどいてくださるか。それが何十年も積み重なって今の私たちのこの瞬間があるわけです。

私たちがいかなる境遇の中でも安心して生きていくためには、還っていく世界があること（浄土）、どこまでも寄り添ってくださる仏様がおられること（如来大悲）、そして私を必ず救うという阿弥陀様のお約束（本願）が必要なんです。この三つを、阿弥陀様は「南無阿弥陀仏」という名号にして私たちにプレゼントしてくださっているのです。

親鸞聖人は、阿弥陀という仏様が、私を救おうと身を乗り出してくださっていると法然上人を通じて教えてもらいました。私たちも同じですね。先輩方が大事になさった念仏の生活をきちんと相続せねばならないでしょう。

テーマのはじめに「南無阿弥陀仏」と置かれてあることの意味をたずねながら、今回の記念講演とさせていただきますと思ひます。

※紙面の都合上、講演の一部を抜粋して編集し、掲載しています。二頁のQRコードから当日の講演をご視聴いただけます。

●真宗本廟(東本願寺)慶讃法要

第一期法要 2023年3月25日(土)～4月 8日(土)まで<15日間>
第二期法要 2023年4月15日(土)～4月29日(土)まで<15日間>
讀迎期間 2023年4月 9日(日)～4月14日(金)まで<6日間>

●九州教区慶讃法要

第一期法要 2026年 会場 鹿児島別院
(薩摩真宗禁制解禁150年法要 兼修)
第二期法要 2027年 会場 佐世保別院
第三期法要 2028年 会場 四日市別院

東本願寺仏事サポートセンター福岡

仏教講座

開教サポート

終活サポート

広報活動

仏事サポートセンター

仏事代行

仏事相談窓口

寺院紹介

九州親鸞フォーラム

東本願寺仏事サポートセンター 福岡の役割って何？

真宗大谷派の福岡都市圏における新たな教化推進拠点として、「浄土真宗の教えをより身近なものとする」と「都市圏での仏事執行をお考えの寺院・門徒のニーズに添えていくこと」「都市圏での開教支援活動を行うこと」を使命とし、二〇二一年五月に、福岡市内に「東本願寺仏事サポートセンター福岡」が設置されました。

福岡都市圏では人口に対し、真宗大谷派の寺院が少なく、転居したご門徒と真宗大谷派の繋がりが失われつつあります。それは仏事（葬儀・法事等）の場も例外ではなく、施主が真宗大谷派の儀式を希望するにも関わらず、他宗により儀式が執行されるといふ現状があります。東本願寺仏事サポートセンター福岡では、このような課題に取り組んでいこうとしています。

まずは、**郷里の寺院と郷里を離れ福岡都市圏に在住するご門徒との「ご縁」を繋いでいくこと**を目的として、さまざまな教化事業や広報活動を展開しています。

また、**福岡都市圏在住の、真宗の教えや仏教に関心のある方**に対しても、「浄土真宗の教え」をさまざまな方法で発信し、真宗大谷派との新たな出会いを結ぶ機会を創り出すことを目指しています。

今回はその活動の中から、「仏事代行制度」についてご紹介します。

東本願寺
仏事サポートセンター福岡に
お任せください！

福岡市で葬儀の依頼が！
地元の方事と重なって行けない！
どうしよう…



法事がしたいけど、
地元のご住職に、遠い福岡まで
わざわざ来ていただくのは申し訳ないわ



仏事代行制度について

福岡都市圏にお住まいのご門徒から、急な葬儀や法事の依頼があった際、所属寺住職に代わって「東本願寺仏事サポートセンター福岡」が仏事を代行する制度です。

仏事代行の流れ

まずは、**仏事サポートセンターへお電話**

寺院からの
ご依頼の場合

仏事代行の内容を確認
ご門徒へ内容の連絡

仏事サポートセンター法務員による仏事代行

執行後、所属寺へ仏事代行の報告と「教化助成金」を還付

※葬儀以外にも、中陰や法事なども承ります。詳細はお問い合わせください。

ご門徒からの
ご依頼の場合

所属寺の確認
所属寺へ仏事代行の内容を確認

法名選定

法名は所属寺の住職に選定いただけます。

執行する僧侶

【仏事サポートセンター法務員】
九州教務所長より委嘱され、法務員研修を受講した僧侶が執行します。

教化助成金

執行によっていただいたご法礼の一部を、教化助成金として郷里の所属寺院に還付します。

仏事代行地域：福岡都市圏及び北九州都市圏の一部及びその周辺地域（詳細についてはお問い合わせください）

法務員の「聲」

仏事サポートセンター福岡・法務員の高見と申します。現在、法務員4名で福岡都市圏での「仏事代行」を担っております。

「仏事代行」では、初めて会う私たち法務員に対し、遺族からの「信頼」を寄せていただけるかどうかが大変なことだと感じています。

所属寺に代わって儀式を執行することの責任感と、引き続き仏事の場を大切にしていきたいという願いを伝えることを心掛けています。

寺院の「聲」

仏事代行制度を実際に利用された京都組浄喜寺（福岡県行橋市）さんに感想を伺いました。

— 仏事代行制度を利用されたきっかけは？ —

住職 福岡市内の門徒さんから葬儀依頼の電話があったのですが、既に別の葬儀が入っていたため、仏事サポートセンターに葬儀代行をお願いすることにしました。

— 実際に利用してみたいかがでしたか？ —

住職 大変助かりました。丁寧な儀式執行はもちろんです。葬儀後は、門徒さんを当寺へしっかりと繋いでくださいました。また、こちらの門徒さんへの思いを、執行者（法務員）へお伝えすることができ、安心しておまかせすることができました。

— 門徒さんの反応はいかがでしたか？ —

住職 自分が葬儀を勤められず申し訳なかったのですが、四十九日のときに「お葬式を丁寧にしてください、安心して父を送ることができました」と仰っていました。ご本山によるバックアップが安心感につながったのでしようね。

— 坊守さんから見ても、仏事代行制度を利用して良かったことはありますか？ —

坊守 制度のおかげで、遠方の門徒さんとのご縁が続くのはとてもありがたいですね。

— 要望はありますか？ —

坊守 お寺への周知はもちろんです。門徒さんへの周知に力を入れていただきたいです。門徒さんにもこの制度を知っていただくことで、まずは故郷のお寺に相談していただけるのと思っています。

仏事サポートセンターや仏事代行制度に今後期待されることはありますか？

住職 仏事サポートセンターに、寺院が使用できる法事会場があれば、都市圏の門徒さんの法事執行はもちろんです。「離郷門徒の集い」などが開催できるのではと感じます。

坊守 仏事サポートセンターの活動がきっかけとなって、これまで手の届かなかった都市圏の門徒さんとお寺をつないでいただけることは、大変喜ばしいですね。近隣のご門徒さんだけでなく、遠方の門徒さんが、再びお寺と「ご縁」をもっていただける機会が増えると嬉しいですね。

— 最後にありますが、ご住職から何か一言ありますか？ —

住職 九州一教区化を機に、都市圏教化の拠点として、「東本願寺仏事サポートセンター福岡」が設置され、仏事代行制度が始まりましたが、それを育てるのは、私たち教区人の使命だと思います。この制度は、門徒さんとお寺のご縁作りだけでなく、門徒さんがご本山を身近に感じる良い機会です。これほど頼れる制度はないと思います。



松尾 英親氏 (福岡組 徳永寺) 秦 秀朋氏 (福岡組 法照寺) 高見 貞浄氏 (福岡組 西応寺) 高田 雅量氏 (福岡組 萬福寺)



清原 明子氏 (坊守) 清原 良潤氏 (住職)

仏事代行お問い合わせ先 東本願寺仏事サポートセンター福岡

特設サイトはこちら

受付:24時間

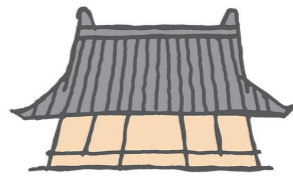
☎ 092-734-0208

✉ fukuoka@higashihonganji.or.jp

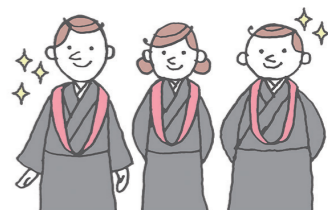


九州教区寺院活性化支援室

あなたのお寺らしさをじっくりと見つめ、
お寺の将来像と一緒に描きましよう！



宗派では、別院・寺院の活性化を支援する取り組みとして各教区に寺院活性化支援室の設置が進められています。九州教区では二〇二〇年度に実施された教区及び組の改編に併せ、全国に先駆けて九州教区寺院活性化支援室が設置されています。



寺院活性化支援室スタッフ長
清原 宗氏

お寺と地域社会との関係や、そこに暮らすご門徒との繋がりのかたちなど、お寺を取り巻く環境は大きく変化してきました。お寺との関わりが薄れつつある社会傾向のなかで、日頃より不安を抱えておられるお寺も少なくないと思います。

このような状況のなか、お寺の活動をサポートするため九州教区に「九州教区寺院活性化支援室（以下「支援室」という）が設置されました。

九州教区には、約八二〇カ寺のお寺があります。一つとして同じお寺は

ありません。そこに関わる人の顔もみな違いますし、それぞれのお寺の良いところや悩みのところも違います。一口に「支援」といってもそこに必要とされるものは一様ではないでしょう。

支援室では、各寺がこれまで培われてきた個性を大切にしながら、あらためて仏事をご縁としたお寺の役割や可能性を見つめ直すことを通して、各寺が閨法の道場として活性化されていくサポートを行っています。

寺院活性化とはお寺のどのような状態を指す言葉なのでしょうか。法要に沢山の門徒が参詣している状態、お寺が経済的に上手く運営できている状態、私が思う寺院活性化とは、そこに集う人々が互いに笑い合っている状態を指すのではないかと思います。

本年四月に本山で住職修習を受講してきました。さまざまな悩みや問題を抱えておられるお寺がありました。門徒数が少なく経済的に苦しいお寺、火事で寺が全焼し、住職さんが焼死され、ご門徒だけが残ったお寺。でもそこに来ておられた方々は、笑顔で前を向いて歩み出されていました。九州教区寺院活性化支援室では、皆さんとともに笑顔になれるような支援や企画を考えていきますので宜しくお願い申し上げます。

若い方や子どもたちのご縁づくりになにかできることはないかなあ。

最近、住職になったけどお寺の運営ってどうしたらいいんだろう。

法話って一言で言っても何からお話したらいいんだろう。

法座の講師を頼まれたけど、うちは参り手が私しかないから急なお葬儀などあったら…お断りするしかないかなあ。

以前よりもお寺の行事の参加者が少なくなってきたなあ。

この辺りも過疎化が進んでお寺の将来が不安だなあ。

それぞれのお寺が抱えているお悩みは一樣ではありません。支援室では、さまざまな講座の展開や、講師の派遣をとおして、皆さんのお寺のお悩みに寄り添いながら、あなたのお寺らしさを一緒に見つめ、お寺の将来像を描いていくお手伝いをします。



◆支援員の派遣

それぞれのお寺のお悩みやご相談等にに応じて、各課題別に専門の講習を受講した支援員を派遣します。

●元気なお寺づくり講座

お寺の長所を活かした将来計画を、僧侶と門徒が一緒に話し合いながら考えていく参加型の講座です。

※近隣の複数寺院で開催することを勧めます。

●都市・過密地域寺院支援

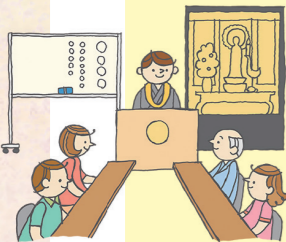
都市在住者や離郷門徒への初縁作りに取り組みます。連続講座や公開講座を予定しています。

●離島・過疎地域寺院支援

お寺に支援員が伺い、聞き取りをさせていただきながら、そのお寺にあった支援と一緒に考えます。

●青少年教化支援

日曜学校や青年会づくりなど、子どもたち、若い方へのご縁づくりのお手伝いをします。



◆講師代行派遣制度

法座や聞法会の講師を務めておられるみなさん、お葬式や体調不良などで講師が務められなかった経験はありませんか。その様なときでも教区内において選任された講師を派遣します。



◆寺院運営実践講座

寺院運営に役立つ、実践的な講座を企画しています。

●これまでに開催した講座

- 「はじめて学ぶお寺の財務・税務」講座
講師 河村昭門氏
(税理士・行政書士・真言宗智山派阿弥陀院住職)
- 「文書伝道研修会」
講師 橋本真氏(企画調整局参事)

●今後の予定

- さらに学びたい人のための住職再修習
(内容例：法話の基礎やコミュニケーションなど)

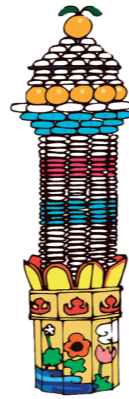
お問い合わせ お気軽にお問い合わせください 0942-32-3056
九州教区寺院活性化支援室(九州教務所内) kyushu@higashihonganji.or.jp

特設サイトはこちら▶



御華束餅のカビ対策

このコーナーでは仏事ならではの悩みや困りごとに役立つ情報を紹介します。今回取り上げるのは「御華束餅のカビ対策」です。法要の荘厳に欠かせない御華束。しかし油断するとすぐカビが生えてしまい、泣く泣く捨ててしまった経験をお持ちの方も多いことでしょう。また、先の理由から落雁で代用しているご寺院もあるとお聞きしています。そこで今回は「御華束餅を長持ちさせる方法」を調べてみました。



ポイント1 粉をよく拭き取る

粉は湿気を集めやすく、カビの原因となります。



今回はわかりやすくするために重ね餅で実験しました。

ポイント2 こまめにアルコール消毒

アルコールを吹きかけ、カビの原因菌を拭き取ります。焼酎などでも代用できますが、香りの少ないもののほうが良いようです。アルコール度数の高いものは、吹きかけるとすぐ揮発するのでおススメです。

ポイント3 素手で触らない

手は雑菌が多いうえ湿っているので、直接触るとカビの原因となります。触れてしまったら、早めにアルコールで拭きとりましょう。

ポイント4 お餅が重なる部分にクッキングペーパーを敷く

防カビシートは水分を吸収しないので逆効果になる可能性も。クッキングペーパーは定期的に取り替えます。

特に重ねた部分はカビが発生しやすい



まとめ

とにかくカビの発生原因となるものをできるだけ排除することが大切なようです。ここで紹介した対策はほんの一例です。絶対的な効果があるとは必ずしも言えません。改良を加えるなどしてカビ対策に取り組んでみてください。

このコーナーでは、皆様からのお役立ち情報を募集しております。採用された方には素敵なプレゼントをご用意しております。下記までお寄せください。

✉ kyushu@higashihonganji.or.jp FAX 0942-39-5077 担当/中野

タイトルに必ず「お役立ち情報」と明記してください。

◆元氣なお寺づくり講座◆

二〇二二年三月十二日、九州教区の寺院活性化支援室が初めて主催して開催する「元氣なお寺づくり講座」が四日市別院を会場に開催され、田川組・京都組の三カ寺が参加されました。

はじめてとなる今回は、「社会とお寺を取り巻く環境の変化」をテーマに講義とワークショップが行われました。

講座のはじめに講師の手嶋暁史(寺院活性化支援員・大分東組)さんから「この講座は、いろいろな人とのつながりを大事にしながらかつ共に創る」ことを大切にしています。講座の最後にはお寺の将来計画書である「寺業計画書®」を作成していただくことが目的となっていますが、その成果物をつくることだけを目的とするのではなくて創る過程を大切にしてください」とお話がありました。



机の上に広げた大きな模造紙に枠を書いて、参加者それぞれが、お寺にとって機会(チャンス)となるものを青、脅威(ピンチ)となるものを赤の付箋に書き出しながらかし合いが行われました。

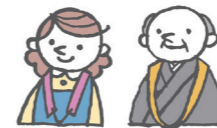
続けてお約束事として、「お寺はこうあるべきだ」というような考え方はなくて、私のお寺はこうありたい」という自らの積極性を大切にしたいこと、そして良いところを最大限に活かしながらアイデアを出し合ってもらいたいことが確認されました。

前半の講義では、日本の総人口の推移や生活環境の変化、お寺に対する社会意識の変化など大きな潮流について説明がありました。

後半は、前半の講義を踏まえながら、実際に自分たちのお寺を取り巻く環境の変化を、ワークショップをおして分析しました。政治や経済、生活スタイルなど、社会全体の変化を大きな枠組みとして、その中にある「お寺界(お寺の世界)」「ご門徒や地域の方の生活」はどのように変化してきたのかを話し合いました。はじめは若干緊張の面持ちもありましたが、一緒に作業するなかで次第に会話も弾んでいるようでした。

元氣なお寺づくり講座は、講義とそれに関するワークショップを中心に全五回の講座として実施されます。今回、ご参加の三カ寺では、講座中に行ったワークショップを実際に自坊でも開催しながら、お寺に関わる方々と一緒に将来計画を描いていきます。

参加者の声



- ◆ご門徒さんと真剣にお寺の話をするのは初めてでした。いいきっかけを頂きました。
- ◆ワークショップは住職だけだと門徒さんを交えてするのは全然考え方が変わってくると感じました。
- ◆今まで脅威と思っていたことが逆に機会(チャンス)なんじゃないかと感じることが多々ありました。
- ◆同じ福岡のお寺でも地域によって規模や環境、悩みどころも違うなと感じました。でも何かそこにお寺の将来を考えていくヒントがあるかもしれない。
- ◆もっと若い方に、お寺に関わって頂けるようにしたいと感じました。

※ワークショップ(フレームワーク)

「思考の枠組みに基づく分析の道具」をつかって議論したことを整理し、「つまり何が言えるか?」という示唆を抽出する時に使われる手法。



元氣なお寺づくり講座の概要(全五回)

- 第一回 社会とお寺を取り巻く環境の変化を見てみよう
- 第二回 自坊の強みを見出し、お寺の使命を考えよう
- 第三回 お寺の将来像を描こう
- 第四回 伝える企画を立案し、計画を具体化しよう
- 第五回 寺業計画書® 発表